



平成21年度地域防災スクールモデル事業

平成21年度、総務省消防庁から県内の3市町村（五條市、平群町、下北山村）が「地域防災スクールモデル事業」の実施団体に選定されました。

今回は、その中から五條市、五條市消防本部、五條小学校が連携した取り組みについて紹介します。

3月9日（火）午後、五條市立五條小学校での「地域防災スクール事業」取材してきました。当日は、あいにくの雨模様で、体育館での実施となりました。

地域防災スクールモデル事業（宝くじ助成）とは

市町村が実施主体となり、消防職員や消防団員を指導者として、自主防災組織、児童・生徒の地域住民に対して、防災活動や消防についての知識・技術を広く教授し、ひいては、将来の地域防災を担う人材を育成する事業です。

実際の事業内容は、これらのメニューから各市町村が計画を立てて実施します。

【事業内容】

- (1) 防災に関する講義
- (2) 防災の広報啓発（防災広報、防災マップ等）
- (3) 初期消火、救助、救急訓練等の実技
- (4) 図上訓練
- (5) 炊き出し訓練等

【実施期間】 3カ年（五條市は平成21年度～23年度まで）

【整備備資機材等】

地域防災スクールモデル事業に使用する資機材等は、（財）自治総合センターから助成を受けて、市町村が購入します。

五條市が宝くじ助成を受けて整備した資機材



簡易トイレ・手斧・ハンマー・ロープ・ボール・消火器・梯子・救急箱・マイク・ジャッキ・防災シート・ノコギリ・つるはし・ライト・担架・ショベル・ヘルメット

（合計17点）

真剣に資機材の説明を受ける児童たち



【3月9日の「防災スクールモデル事業プログラム」】

- ① 五條市担当者から防災に関する講義
- ② 防災ビデオの視聴（約20分程度）
- ③ 防災資機材の紹介と使用方法について
- ④ 学校からの講評

【学校からの講評】

○防災スクール事業で、防災資機材の整備や使用方法の説明を聞き、行政が自分たちの「安全・安心」を支えるためにサポートしてくれていることを児童に伝えることができた。

○消防署員から防災資機材の使用の方法の説明や市の職員から地震の発生する原因等の説明を聞くことは、児童に防災意識をもってもらうのに役立った。この事業を活用し、将来の地域の担い手になってほしい。

○定期的に行う訓練も重要だが、2年目以降は、災害をより理解するために、地震被災者からの体験談を直接、聞ける機会があればよいと思う。

五條市庶務課 防災担当者からの一言

§「大規模災害に備えて必要なこと」§

いつ襲ってくるかわからない災害への備えが重要となります。中でも、児童の防災意識を高めることもその一つです。今後は、学校、消防、地域の自主防災組織とより一層の連携を強化し、わかりやすく関心をもってもらえるような防災スクール（訓練や講演会等）を計画し、市内の各地域へ拡充して実施を計画しております。また、助成を受けた資機材を有効に活用して参ります。

平成22年度五條市の防災スクール実施計画

7月：救命救急訓練

9月：地震を想定した避難訓練

1月：地震を想定した避難訓練

※助成を受けた資機材を使用して実施されます

【編集後記】

防災スクールの展開は、学校、消防、市、地域の自主防災組織が一体的に防災活動等行うことが重要です。

今後は、当事業を市内全域に広めて、各関係機関が連携を強化して、積極的な防災活動を行っていただくとともに、活動を通じて、地域のコミュニティが活性化するよう期待しています。（山）